

谷尾彬充 学位論文審査要旨

主 査 梅 北 善 久

副主査 岡 田 太

同 藤 原 義 之

主論文

AMIG02 as a novel indicator of liver metastasis in patients with colorectal cancer

(大腸癌患者の新しい肝転移指標としての AMIG02)

(著者：谷尾彬充、齊藤博昭、網崎正孝、原和志、菅澤健、植嶋千尋、多田陽一郎、
木原恭一、山本学、野坂加苗、佐々木諒、尾崎充彦、岡田太、藤原義之)

令和 2 年 Oncology Letters 掲載予定

参考論文

1. Resection of rectal cancer resembling submucosal tumor that was preoperatively diagnosed with endoscopic ultrasound-guided biopsy

(EUS-FNABによる術前診断が可能であった粘膜下腫瘍様の形態を呈した直腸癌の1例)

(著者：谷尾彬充、齊藤博昭、蘆田啓吾、漆原正一、山本学、徳安成郎、坂本照尚、
本城総一郎、前田佳彦、藤原義之)

平成 29 年 Surgical Case Reports 3 巻 article number:84

2. A prognostic index for colorectal cancer based on preoperative absolute lymphocyte, monocyte, and neutrophil counts

(大腸癌術後の予後指標としての術前リンパ球、単球、好中球絶対量)

(著者：谷尾彬充、齊藤博昭、植嶋千尋、高屋誠吾、山本学、徳安成郎、坂本照尚、
本城総一郎、蘆田啓吾、藤原義之)

平成 30 年 Surgery Today 49 巻 245 頁～253 頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は癌細胞表面に存在する Adhesion Molecule with Ig-Like Domain 2 (AMIG02) という接着タンパクの発現と機能について、ヒト大腸癌細胞株および切除検体を用いて検討したものである。AMIG02 過剰発現によって大腸癌細胞株の増殖能、浸潤能及び肝類洞内皮細胞への接着能が有意に増強し、AMIG02 発現の抑制によって有意に低下した。また、ヒト大腸癌切除検体において、AMIG02 発現が大腸癌肝転移再発の独立した予測因子であることを明らかにした。本論文の内容は大腸癌肝転移における AMIG02 の機能と肝転移予測マーカーとしての可能性を示唆するものであり、学術水準を高めたものと認める。